ダサダ砂漠

ビル風に舞う砂塵 細める目 頬染めるコスメのマーブル模様
 大人ぶる表情も見る影もなく 消え、冷え冷えとした砂丘へと
 変貌を遂げた帝都　摩天楼も棘だらけのサボテンとなって
上空の月を突き刺す様 聳えて 見下すんでしょう？

嚥み下せぬ三下り半 反芻し落胆して暮らす駱駝
抱くラヴも堕落し草臥れて　プラダのラグジュアリ もガラクタに
サンクチュアリを追われた憐れな身
大荒れの風に巻かれ、忽ち砂に覆われた街並
背に負う我の影とふたり旅

 夢幻の楼閣　揺らぐ音もなく　一握のもとに脆く崩れ去り　指の隙間から落ちる月明かり なすがまま　ださださだ
自ら刻み込む　傷が残す瘤　自虐がこの身飾るアクセサリ
寄る辺ない　アラビアンナイト　尽きせぬ　だささ　暴く月　背に浴びながら

傷だらけ　痛む脚　何処へ向け　歩を進め　干す目と渇する咽喉
横殴る嘲笑も　自分宛と哭く　卑下　一転、リエントリーがサーキュレート
サキュレントプラント　みたいに肥大した劣等感
と恥辱とが　冗句すら赦さない程に
尖がりルーザー　を咎め　裁くんでしょう？

砂漠に咲く薔薇にはなれずハッスルした昨晩がフラッシュバックさ
自らの馬鹿さに草葉も生えず、 水枯れた砂地で腐り噛む砂利
断捨離を終えど残る恥　大江戸の粋もホログラフィでしか知らず
黄土色の砂に　消えそうな理想へのお葬いの旅

夢幻の楼閣　揺らぐ音もなく　一握のもとに脆く崩れ去り　指の隙間から落ちる月明かり なすがまま　ださださだ
自ら刻み込む　傷が残す瘤　自虐がこの身飾るアクセサリ　寄る辺ない　アラビアンナイト　尽きせぬ　だささ　暴く月　背に浴びながら

寂寞の　砂漠を　歩く